



発電量を示す表示盤に見入る子どもや保護者たち(北区で、きょうとグリーンファンド提供)

10号機目の太陽光発電

北区妙林苑保育園に完成 グリーン ファン

環境保護活動を進めるN 京都市内で設置を進めてい
る太陽光発電装置「おひさ
ンファンド」(下京区)が、10号機に達
した。寄付金や新エネルギー

財団(NEF)の補助金
などを活用、2001年か
ら保育園や寺院などの屋上
に取り付けてきた。発電パ
ネルの年間発電量は10機合
わせて約6万4000キ
ワ。同ファンドは「きょう
かな取り組みだが、環境を
守る活動を理解して、われ
る人たちが増えてうれし
と話している。

10号機は、北区の妙林苑
保育園が創立70周年記念事
業として設置。10キ・ワ規
模のパネルで、同園の年間
の総使用電力量の12%を発
電する見込み。総事業費は
約1200万円で、約半分
を新エネルギー・産業技術
総合開発機構(NEDO)
が補助、残りを園や市民の
寄付でまかなう。

点灯式には、保育園児や
保護者ら約270人が参
加。園児らは、発電量が増
えると点灯する表示盤を
珍しそうに見入っていた。
真田寛子園長は「子ども
もたちは毎日楽しみに表示
盤を眺めている。これをき
っかけに、省エネや節水、
食べ物をそまっししないこ
となど、自然と命がつなが
っていることを教えたい」
と話す。

同ファンドでは、パネル
を設置する保育園などを引
き続き募集しており「設置
した園では先生たちが当事
者意識を持って環境問題を
勉強してくれる。今後は地
域や企業にも理解の輪を広
げていくことが課題」とし
ている。問い合わせは同フ
ァンド(075・53352・
9150)へ。